

平成30年度学校評価（評価結果と課題）

本年度の 重点目標	生徒個々の特性を把握し、個に応じた学習方法を身に付けさせ、自ら目標に向かって積極的に学ぶ態度を養う。また、思いやりと公共心を身に付けさせ、礼儀正しい行動をさせるなど、看護や福祉に関わることのできる社会人の育成を目指す。		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	防災教育の充実に向けて	実践的な防災避難訓練を実施することにより、地震発生時に的確な行動がとれるようにする。	<p>（評価）第1回防災避難訓練は、避難経路の確認、シェイクアウト訓練、地区別帰宅準備訓練を行った。第2回防災避難訓練は、予告しない状況下での避難訓練を行った。生徒の避難の状況は良好であった。</p> <p>（課題）避難経路が遮断された場合や、負傷者がでた場合の対応訓練など実践不足である。</p>
		防災講話を実施することにより、生徒の防災意識の向上を図る。	<p>（評価）大規模災害の理解と防災意識の向上を目的に、自衛隊職員を講師に招き、「防災講習会」を実施した。アンケートの結果、防災意識が向上したと答えた生徒は、99%であり、効果的であった。</p> <p>（課題）「防災講習会」の実施により体験学習（スモーク体験など）の機会が減少した。</p>
教務部	主体的な学習態度の定着と学校図書館の有効活用	生徒が意欲的に参加できる授業を目指し、授業力向上を図る。	<p>（評価）授業アンケートの実施と公開授業を導入し、生徒の学習姿勢を多面的に把握することができ、指導法の参考にできた。</p> <p>（課題）新学習指導要領の改定に伴い、主体的な学習（AL）の導入法の検討を進めていく。</p>
		学校図書館の有効活用を通して、読書活動の推進を図る。	<p>（評価）POP コンクールやHR 掲示などのアプローチと図書館のハード工夫し、図書館の利用回数が増加した。</p> <p>（課題）読書活動を推進するため、読書週間の導入の検討を進めていく。</p>
生徒部	規範意識を高める生徒指導	日常生活全般にわたるマナー意識の向上、正しい身だしなみなど、規律ある学校を作る。	<p>（評価）スマートフォンを使用したり、イヤフォンをしたまま登下校する者がまだいる。あいさつ、身だしなみについても改善すべき点は多い。遅刻数、交通事故数も増加した。</p> <p>（課題）基本的なマナーや社会常識をどのように身につけさせるか。</p>
		他者に対する思いやりを持ち、様々な配慮のできる生徒を育成する。	<p>（評価）「いじめ」と認定されるような行為は出てはいないが、SNSに起因する問題があった。</p> <p>（課題）社会的な常識の育成。</p>
進路部	個に応じた進路実現に向けて	各学年に応じた就職・進学情報の提供を図る。	<p>（評価）進路説明会を計画通り実施した。また、本科2年生に対する早期指導として11月に進路希望調査を行い、卒業生との就職懇談会を3月に実施、専攻科1年生に対しても早期指導として3月にガイダンスを実施した。</p> <p>（課題）福祉科2年生の進学希望者に対する早期指導のあり方を考えていく必要がある。</p>
		あいさつ、マナー、身だしなみやコミュニケーション能力を身に付ける。	<p>（評価）接遇講習会を計画通り実施した。また、面接指導を通して、基本的なマナーの定着やコミュニケーション能力の育成を図った。</p> <p>（課題）指導の成果が一過性のものにならないようにする方法を考えていく必要がある。</p>
保健厚生部	安全で心地よい学習環境の確立と、悩みをもつ生徒情報の共有及び早期対応	気持ちの良い学習環境を整えて、健康的な生活行動を身につける。	<p>（評価）実施回数を2回に増やし、学校保健委員会の活性化をはかった。保健委員の活動の一環で、保健室来校状況の実態を踏まえ、“こころとからだ”のセルフコントロールについての学びを深めた。</p> <p>（課題）生徒の中には、自身の健康課題についての意識付けが少ない生徒もおり、継続的な活動や学びが求められる。</p>
		人間関係の悩みや社会的スキルから適応課題をみつけ、適切に対応した相談や支援を確立する。	<p>（評価）面接指導・各種検査・学校生活調査・健康観察などの結果を通じて生徒の変化を見つけ、本人に合った接し方や声かけをするように努めた。教員間の情報交換を速やかに行い、必要に応じ、保護者との連絡を密にしながら、連携をはかった。</p> <p>（課題）生徒自身が自らの課題を明確にし、その課題に向けた手立てを見つけ、行動していけるような働きかけをする。</p>

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
いじめ防止対策の推進	いじめの未然防止及び早期発見に対する取組の充実	定期的な I F T 委員会により生徒情報の共有を行い、対応策を立てる。 生活実態調査によるアンケートの実施を通して早期発見につなげ、適切な対応につなげる。	(評価) 定期的に I F T 委員会を実施し、生徒情報の共有をはかり、そこで得た情報を有効に活用することで、生徒の少しの変化も見逃さないようにした。 (課題) 生徒の情報を的確且つ迅速に把握し、得た情報をもとに、教員間、保護者、SC、SSW 等との連携及び協力を図る。
1 年	学習習慣および基本的な生活習慣の確立	要な基礎学力を身につけさせる。	た。学業不振生徒に対しては、各教科・学科や教務部とも連携し対応することで、前向きに学習へ取り組もうとする姿が見られた。 (課題) 職員間で情報を共有し、柔軟かつ丁寧に指導することで、継続的な学習習慣を身につけさせる。
		学校生活に適応し、規律正しい行動をとれるようにする。	(評価) 入学前に描いていた理想と現実の差に悩む生徒もいるが、面談の実施や家庭と連絡を取り合うなど対応することで、概ね遅刻・欠席等ほとんどなく学校生活を送ることができている。 (課題) 生徒の変化に留意し、個に応じた指導を重ねることで規律性を高める。
2 年	望ましい勤労観や職業観の修得および学校行事への主体的参加	個に応じた指導を充実させることにより、マナーやモラルの向上を図るとともに、計画的に学習に取り組ませる。	(評価) 個人面談や日常の声かけを通して、多くの生徒はマナーやモラルに関する意識を高め、計画的に学習に取り組む姿勢を養うことができた。 (課題) 一部の生徒の規範意識や学習意欲を向上させるための指導を充実させる。
		事前学習に主体的に取り組む、充実した修学旅行となるよう支援する。	(評価) 歴史学習や長崎市内班別研修のコース選定など、限られた時間の中で主体的な事前学習を行い、有意義な修学旅行とすることができた。 (課題) 事前学習の十分な時間を確保するとともに、班別行動の内容の充実を図る。
3 年	規範意識の確立と道徳的実践力の向上	下級生の模範となるよう責任と役割を自覚した行動を身につけさせる。	(評価) 自己の進路や社会的責任・役割について生徒と共に考え、行事などの機会に行動に移すようにしたことで自覚することができた。 (課題) 生徒の状況を理解し、個に応じた対応方法を身につける。
		個に合わせた進路を実現させる。	(評価) 個々との面談を重ねていくことで、希望の進路選択を実現させることができた。 (課題) 今後、進路実現のための学習の積み重ねや生活態度を身につけさせる。
衛生看護科	社会人基礎力を踏まえた「自ら考え学ぶ力」と「倫理観の育成」	教科指導の充実を図り主体的学習に取り組む姿勢や、前に踏み出す力を育成する。	(評価) 段階的にアクティブラーニングによる授業展開を導入し、主体的に取り組む学習成果がみられている。また、社会背景の変化にあわせた課題とし、がん看護や児童虐待などの出前講座を活用し、広い視野からの創造性を喚起し、学ぶ力へと繋げることができた。 (課題) 合理的配慮を必要とする生徒への指導・支援体制を継続し整える。
		日々の学習活動や行事への取組を通して、社会人基礎力や倫理観を養う。	(評価) 看護臨地実習や地域への参加活動を通して、体験的学びの深化と発信する力を育んだ。同時に、開かれた学科づくりの推進とさまざまな事象から倫理的課題の解決のために取り組むことができた。 (課題) 体験的な学習やシミュレーション学習を通し、社会人基礎力や倫理観の育成をする。
福祉科	社会人基礎力を育成し、社会の一員として活躍できる人材を育てる	生徒の到達度を把握し、一人ひとりに合った指導をする。	(評価) 教員間で情報を共有し、個に応じた指導をおこなうことができた。介護実習では各自が設定した目標を到達することができた。 (課題) 一人ひとりの特性に合わせた指導方法について今後も検討していく必要がある。
		地域での体験的な学習を通して、社会人基礎力を養う。	(評価) ボランティア活動や校外での行事に積極的に参加する生徒も増え視野を広げることができた。 (課題) コミュニケーション能力を向上させ社会性の育成を図りたい。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
専攻科	健やかで知性豊かな人間性の育成と看護師国家試験の全員合格	看護職に求められる人間性を理解させ、学生が主体的に行動できるようにする。	(評価)入学オリエンテーション、実習オリエンテーション、アクティブ・ラーニングの授業、演習を通して、自己の看護観、倫理観を確立することはできた。 (課題)確立した看護観、倫理観を自己の思考として判断でき、実践できるように取り組む。
		専門的な知識と技能を習得するために必要な学習に取り組み、看護師国家試験の全員合格を目指す。	(評価)授業外での補講などの計画は予定どおり行えた。専攻科2年生は実習中に領域別の問題に取り組めるよう指導した。専攻科1年生では、日々の生活の中で環境を整え、学習習慣の確立を図った。 (課題)STの時間を利用し、過去問題の実施、週毎の課題の提出など専攻科1年、2年と継続して学習習慣の確立を目指す。
勤務時間の適正化	勤務時間の適正化を図り健康障害防止に努める	在校時間状況記録を活用し教職員の健康障害の防止に努める。	(評価)在校時間状況は僅かではあるが、短縮傾向にある。引き続き健康障害の防止に努めていきたい。 (課題)分掌・学科等で業務の集中する時期等がある。業務の偏りや負担の軽減をどのように図るかが課題。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の特性を把握し、積極的に学習に取り組む態度の育成</li> <li>・思いやりや公共心を身につけさせ、看護や福祉に携わる社会人の育成</li> <li>・積極的な情報発信による学校理解の促進</li> <li>・在校時間等の状況記録を活用し教職員のメンタルヘルスの保持に努める。</li> </ul>	